

「令和2年度再エネ電力と電気自動車や燃料電池自動車等を活用したゼロカーボンライフ・ワークスタイル先行導入モデル事業」におけるアンケート調査の集計結果をご紹介します。



※2022年6月20日時点でアンケートに回答された5,422名が対象

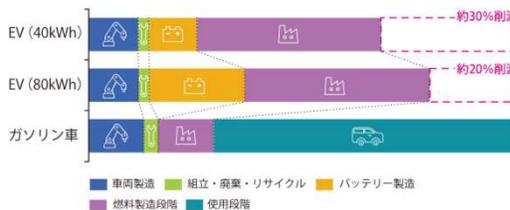


EV等を購入された方の声！ 「あなたの購入要因は何ですか？」

1 環境にやさしそうだから

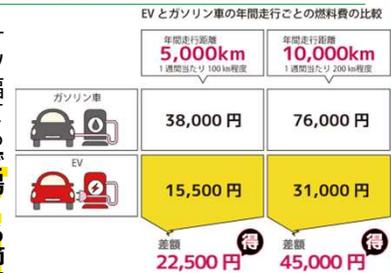
EVは電気を利用して走行するため、ガソリンを燃焼して走行する従来車と比較して、**走行時のCO₂排出量は大幅に少なくなっています**。製造時のCO₂排出量については、搭載するバッテリーの観点から、EVのほうが従来車より多くCO₂を排出しますが、LCA（Life Cycle Assessment: 製品の製造から廃棄までのすべての工程における環境負荷）においては、**EVは従来車に比べ20～30%CO₂排出量が少なく、環境にやさしくなっています**。また、EVに充電する電気を再エネ電力に変えることにより、さらなるCO₂排出量の削減を実現できます。

ガソリン車とEVのLCAにおけるCO₂排出量の比較



4 ランニングコストが安いと感じるから

EVが走行に利用する電力の価格は、ガソリン価格と比較し大幅に安く、EVをすべて家庭の電力で充電する場合でも、**年間で5,000km走行する場合は22,500円、10,000km走行する場合は45,000円を節約することができます**。

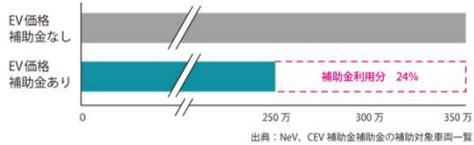


2 購入補助があり、お得感があるから

環境省及び経産省では、**環境負荷が少ない自動車 (EV、PHEV、FCV) の購入費の一部への補助事業を実施**しており、令和3年度においては、環境省では再エネ電力100%電力調達を条件に最大80万円を、経産省では充電設備との同時購入を条件に最大60万円の補助を行っていました。

令和4年度においても、**クリーンエネルギー自動車の購入費について、最大85万円の補助を受けることができます**。

普及EVの補助金受給額の本体価格に対する割合

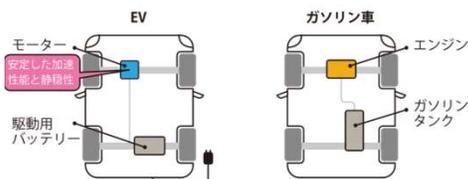


3 商品の特性・性能に魅力を感じるから

EVはモーターにより走行するため、ガソリンの燃焼によりエンジンを回転させ走行するガソリン車と比較し、**アクセルを踏んでから加速までの遅れがなく、走行開始時から一定の加速をすることができます**。

また、EVは同様にエンジンからの動作音や振動がなく、**走行時の静穏性に優れます**。加えて、EVは電気を利用するため、**ガソリンの臭いも気になりません**。

EVとガソリン車の内部構造の比較



5 自宅で充電できるから

EVは自宅に充電設備を設置することで、**夜間での充電が可能となり、利便性が大きく向上します**。戸建て住宅を新築する際に設置するケースに加え、現状設置がない住宅にも追加で設置することが可能です。様々な充電設備を選択可能です。またEVの購入と同時に充電設備を設置することで、令和4年度現在、購入費用や工事費用への補助を受けることができます。



6 災害時に非常用電源にもなるから

EVが搭載しているバッテリーは大容量であり、EVから家庭へ電力を供給する設備 (V2H) を設置していれば、**災害時や停電時において系統から電力が供給されなくなった際も、2～4日程度の家庭での消費電力を、EVからの電力のみで賄うことが可能です**。



その他回答

- 7位 自宅で蓄電池として活用できるから
- 8位 減税がありお得感があるから
- 9位 これまでにない製品だから
- 10位 自宅以外にも充電施設があるから
- 11位 周囲にアピール・自慢したいから
- 12位 周囲の人が保有しているから

購入要因その他の回答



30代女性

ガソリンの匂いが苦手だが、EV等ではガソリンを利用する必要がないから

自宅に設置している太陽光発電による電力をEV等に充電し有効に活用できると考えたから



30代男性



50代男性

EV等はエンジンではなくモーターで動くため、走行時の音が静かで近隣にも騒音の迷惑をかけないから

EVの車体底面にはバッテリーが敷き詰められており、衝突安全性が高いから



50代男性



50代男性

ガソリン車と比べ、EV等は部品点数が少なく故障が少ないと予想したから

EVは電気により走行するため、燃料費がガソリン価格高騰の影響を受けないから



40代男性



EV等を購入された方の声！ 「あなたの利用目的は何ですか？」

EV等の利用目的

EV等を購入された方々が、どのような目的で利用されているかを紹介します。EV等の利用者の多くが買い物、中・近距離のレジャーなどの日常的な利用を目的とされているようです。また、200kmを超える長距離旅行にも少なからず利用されているという結果となりました。

